

春先に私の薔薇たちはほとんどがうどん粉病に罹りました。消毒液の効き目はさほどなく、次善の策、究極の決断として、ほとんどの枝を切りました。14鉢あった薔薇は小さな幹を残しただけで、どれが誰やはっきりとはわからなくなりました。何とか12鉢は持ちこたえてくれましたが、2鉢はとうとう枯れてしまいました。残念なことでした。

けれども、7月に入ると、フレデリックダール種の白薔薇は蕾をつけるが早いか、開き始めました。早朝にベランダに出ると、くっきりとした剣弁の花びらの中からかぐわしい薔薇の香りを漂わせています。本当に嬉しくて、毎日、早朝それぞれの鉢の薔薇が成長しつつある姿を眺め、咲く日を楽しみに待っているところです。



夫のデュピュイトラン拘縮になった手掌は右手中指が伸ばしにくくなっていました。痛くも痒くもないと言っていましたが、曲がったままで、触ると固く、よく我慢してきたものだ、と驚きます。女性は「見た目」がとても気になるものですから、異様な形状には違和感や不安を覚えます。主治医によると、動かしづらくなった段階で手術すればいいというので、この時を待ったのです。

手術は全身麻酔で2時間くらいかかるということでしたからとても心配しました。そのうえ切除する患部は神経や血管や腱鞘など、細かい部分を傷つけてはならない、デリケートな手術だと聞いていたので、気の小さい私は心

臓バクバクでした。

手術後に主治医が相談室に私を呼び、「大成功です！中指の先端から手首までジグザクに切開し、繊維種をととてもきれいに取れました。指も伸縮が出来ます。しばらくギブスをして、傷の保護と回復を待ちましょう」とニコリ笑って、私の緊張しきった肩をポンポンと軽くたたいて、喜びを分けてくださいました。ただ、痺れが出る可能性、再発する可能性もあるとのことでした。



夫はベッドに寝たまま、ギブスで右手は固定され、麻酔薬のせいで、しばらくボーッとしたまま病室に運ばれ、安静を保つようにされています。たった一本の指でも、このように大きい手術をする羽目になりましたが、改善することが可能とは嬉しい限りです。寿司職人の手のようだと言われたと自慢していた元の手を見るのを楽しみにしています。痺れも痛みもなく、順調に回復し、週末には退院できるとのこと、でもギブスはしばらく利用しなければならないようです。

私の薔薇も支柱があれば、また針金で結んでおけば、大風にも、また体力のなさにも多少は耐えられるでしょう。夏の暑い盛りを迎えますが、薔薇たちの回復と共に夫の手の回復も楽しみに待ちたいと思っています。